

昭和5年3月、三井信託本店地下金庫前にて
左から高松宮殿下、團琢磨(三井信託会長)、米山梅吉(三井信託取締役社長)



1924(大正13)年4月15日、三井信託株式会社の営業が開始された。その設立趣意書に「立法の精神に則り、信託会社の経営を促進して、信託業の発達に一新紀元を画する」と書かれているように、我が国を代表する信託会社を目指した。

三井信託銀行の社長を務めた西田敬宇氏によると、初代社長米山梅吉が新会社に期待したものは「信頼されて財産を預かるには単に営利の追求のみならず、心の底には常に奉仕の精神をもつべきであるという信念と、今まで日本になかった新しい仕事に携わるゆえ、創意と工夫によって未来を切り拓くこと」であったという。

米山は三井信託会社の経営にあたり、米国流の資本と経営を分離する考え方を採用した。また、ほとんどの市中銀行が外国業務を営んでいない時代に専門の外国部を設け、信託会社としては初めて社員の海外研修を行い、金融機関の土曜半休制を実施するなど、経営や機構面で旧来の会社にない方式を取り入れた。

会社としても、当時あまり馴染みがなかった信託業に関してパンフレットを作成配布したり、新聞に解説を掲載し、啓蒙宣伝活動に力を注いだ。1925(大正14)年、社団法人信託協会会长に選任された米山は、翌年ラジオ放送で信託について語り広報役も担った。信託協会はより広く信託の知識が広まるように、国定教科書へ解説を挿入するように働きかけ、「信託」「貯蓄」の二項目に分けられた解説書は、高等小学校読本にも採用された。様々な努力の結果、日本の信託業は一般にも浸透していった。

秋季例祭

報告

■ 日 時／2023年9月16日(土)午後2時
■ 会 場／米山梅吉記念館ホール

開会前墓参

講 演

【演題】「元R1財団奨学生
日本から何を学ぶ」

【講師】リチャード・ダイク氏（東京RC）

私が1968(昭和43)年ロータリー財団の奨学生として九州大学に留学した時、保証人は太宰府天満宮の宮司さんでした。その時、九州大学にはアメリカからの学生が2人しかいなかった。米山の奨学生は30人位いました。月に1回太宰府天満宮に集まってロータリーの話を聞き、初めて米山奨学金について知りました。現在毎年800人くらい。この制度はロータリアンとして非常に誇りをもっています。ロータリーは何をやっているのか、と聞かれるとまず米山奨学金といいます。

2019年11月、私の師匠エズラ・ヴォーゲル先生が最後に来日され、愛知大学で講演をしました。愛知大学は日本と中国の関係で非常に重要なところです。明治に近衛篤磨(近衛文麿のお父さん)が、上海で東亜同門書院という大学を創立し、戦争中も続いていました。上海でできなくなり豊橋に移してそれが愛知大学になった。だから今でも愛知大学は日本と中国の関係で大事なところです。



米山が通ったオハイオ州ウエスレян大学



講演するリチャード・ダイク氏



これがオハイオ州ウエスレян大学、創業は1842年メソジスト系です。米山はできてから30数年で入学、エズラ氏は100年くらいたってから学びました。エズラ氏はユダヤ系です。オハイオの中でユダヤ系は珍しい。両親は東ヨーロッパからきました。お父さんはニューヨークやボストンに行くと人間関係が面倒くさくなる、と田舎にいきます。お父さんは、町にとけこむためにロータリーに入り市民になった。米山は、ここに留学して人生がどういう風に変わったか。興味深いところです。

エズラ氏は田舎の大学を出てハーバードの大学院を出て博士号を取得。指導教官から「お前は田舎育ちで世界をみる必要がある。海外にいって研究する方がいい」といわれ、色々調べ日本に行ってみようとなつた。

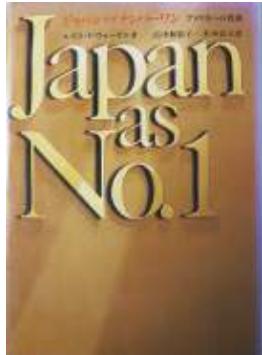
1960年代終わりに、千葉県の市川で6人の家族と生活をして新しくなった生活パターンを調査します。書籍完成は1967年ですが、2020年まで毎年この家族を訪問し、子ども孫、ひ孫の世代までつきあい、日本がどのように変わってきたかをみてきました。沖縄返還後の1970年頃から貿易摩擦の火種がくすぶり始め、1988年には東芝のラジカセをホワイトハウス前で壊すなど、日米関係が悪化した。東芝事件は、冷戦期の旧ソ連への先端技術漏洩のココム違反でしたが、日本企業が狙い撃ちされ日米貿易摩擦が先鋭化する切っ掛けになった。

『ジャパン・アズ・ナンバーワン』が出たのが1979年です。日本をほめる為ではなくて、アメリカは日本から何を学ぶか。日本は失業率が低いし、貧富の差が少ないし、治安が非常にいいし、教育水準が上がってきてる。アメリカは日本から学ばなければいけない。日本では52万部売れた。1冊1300円で累積の売り上げは6億7千万円。アメリカでは4万部くらいだが日本はすごい。この本が出たとき、元駐日大使のライシャワーが「この本はアメリカ人に読んでもらいたい。アメリカの教訓として非常に大事」と言いました。この本は、日本だけでなくシンガポールやマレーシア、台湾でも売れ、中国でも海賊版が出て売れた。アメリカ人の学者が書いたことでアジア諸国は日本から何を学ぶか。1980年代に米中関係が正常化されて、アメリカ人が中国に行けるようになった。先生が巻頭に書いたけれど、文化革命が終わって中国がある程度政治的に落ちついたら発展する勢いが出てくる。勢いは出てきたけれどまだアジアの中で遅っていました。

ここでぼくと米山ケイトさんのつながりを。ケイトさんは東京フィルで働いていて僕は評議員をやっていて、東京フィルが上海で演奏するということになった。そのときケイトさんと初めて会いました。

85年に円高を背景にして中国に対する投資ブームが日本におこった。『ジャパン・アズ・ナンバーワン』がベストセラーになり、日中貿易が急速に拡大した。日本の存在は、中国経済にとって経済援助はもちろん投資貿易の領域にとっても欧米諸国をはるかに上回り、他国に比べて圧倒的なものとなった。この時代があったんです。日中関係が非常によくなり、日本の会社が中国に進出した。

私は石橋湛山を研究しています。石橋湛山は戦後静岡第二区が選挙区だったと思います。石橋湛山が考えていた日本のアジアの中での役割、存在価値。これは石橋が大正9年に書いたことですが、いずれ植民地の時代が終わり、台湾にせよ朝鮮にせよ支那にせよ早く日本が自由開放にして政策とるべきだ。そうすれば国民は永遠に日本から離れることはない。政治的にも経済的にもこの国は日本の真実に長く続くであろうと。日本は資本がある。元金がたくさんでれば重箱は隣の家から喜んで貸してくれる。日本は植民地をもつということではなくて、アジアの国に投資



してそれが日本の発展につながったと。

2000年にヴォーゲル先生はリタイアして、10年かけて鄧小平の伝記をまとめました。鄧小平はどうやって中国を近代化したか。鄧小平が150年間果たせなかつた使命を、彼の仲間がやって中国を豊かにする道をつけた。しかし1990年代から日中関係が難しくなり、2000年代になると反日デモがおきた。先生の最後の作品は、日中関係に関してあんなに華やかな時代があつたのになぜ難しくなってきたのかを本にまとめた。先生は中国にも日本にも友達がたくさんいる、なんとかして橋掛けをしようと思った。安倍総理が靖国神社参拝したときに先生が心配して官邸に電話しました。安倍総理はいらっしゃらなかつたので、菅官房長官に会つた。靖国参拝とか中国に刺激を与えてるのではないかと。菅官房長官は、1時間半くらい官邸として日中関係をどういうふうにやっているかを説明してくれた。それだけ影響力があった。習近平になって何が変わつたか。1989年にソ連の崩壊、同年胡耀邦が亡くなり天安門事件があり、中国における最大の問題は、共産党の存続になりました。

日中関係で考えても、日本の問題ではなく中国の問題です。中国が国内に問題を抱えると、日本が悪いといえばすむ。昔であれば問題にならなかつたのに、中国が経済力も軍事的にも大きくなり、領海問題とか尖閣の国有化とか、安倍総理の靖国参拝を心配して穩便にできないかを安倍総理に電話し、裏方として動きました。

数年前にインドで日本のものづくりをやってほしい、とJICAから頼まれました。2年間のコースで毎月どこかに集まって勉強する。二年過ぎて日本に過ぎ来て、工場見学をしたり、卒業旅行をします。訪日時何を見て勉強したいか、自分で選んで日本に来る。30代前後のインド人が何を選択するか。病院の受付の仕方を見に聖路加や赤十字病院にいく。日本の公園がどういう風に整備されているか、代々木公園や新宿御苑に行く。インドも伝統芸能があるが、歌舞伎はどういうふうに定義されているか。近代化すると伝統芸能がどうなるか、なぜ歌舞伎は採算ベースで継続しているか。インドのレスリングと比較して相撲がどういう風に経営されているか。生け花では家元制度がどのように続いているのか。歴史が長く文化の深い日本がどのようにして近代化しているかをみたい、アメリカに行っても勉強にならない。日本は独特で何を学ぶか役割がある。それだけ日本は価値があるということです。

二人の先達



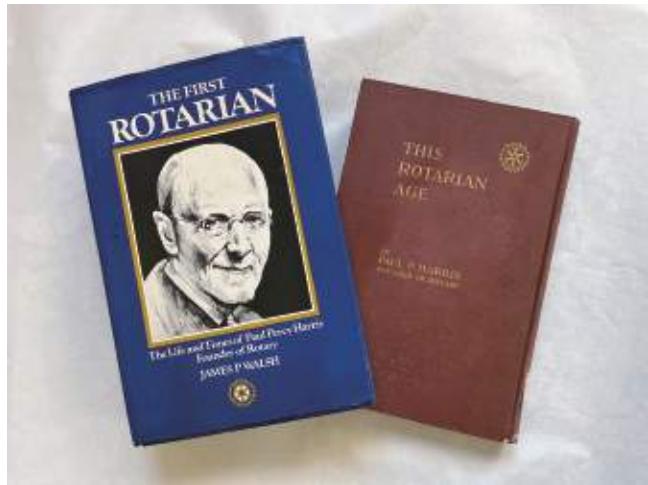
ポール・ハリスと 米山梅吉

神崎 正陳 (茅ヶ崎湘南 RC)



ポール・ハリスは、『ロータリーの理想と友愛』のなかで「明日のロータリー」という一章を設けて若者のために語っています。すでに第二次世界大戦以前から、多くのロータリアンが青少年への奉仕を行っていたということは、当然のことと言えるものではあっても、改めて一種の感懷を覚えるものです。「ロータリークラブの下に少年クラブが幾種もある。これら少年クラブは、ロータリークラブがこれを組織し支持しているのである。」とも記されています。おもしろいと思ったのは、1935年当時すでにアメリカでは労働時間の短縮が実施されていたらしく、「今は労働減少を計画した結果父親の労働時間が減じたことはもちろん、少年の働く必要がほとんどなくなってしまったのである。この少年の放漫になりやすい精力をどう使わせたらよいか。」と心配しています。さらに当時アメリカで流行していた無銭旅行に言及し、「無銭旅行の流行はごく控えめにいっても、正に青少年の勢力の遣り場となる役割をなしている。このように

してまず自国について学ばしめ、また人生の現実を知らせる機会を与えるのである。最後に大切なのは青年を他日の玉とすべき艱難に遭遇させ、人間に必要な人生陶冶の苦験を味わわせることである。いずれにしても無銭旅行を非難するのは筆者のことではない。筆者は青年時代に自国の到る所を遍歴し、三たび大西洋を渡って世界の実情を学び真の人生を経験しようと企てた。…」と述べています。ポール・ハリスが、アイオワ州立大学卒業後、自ら後に「五年間の愚行」と呼ぶ放浪の旅をしたことは余りにも有名なことですが、ポール・ハリスにこの愚行の経験あればこそ青少年のことに関し暖かくかつ毅然とした対応ができたことが良くわかります。彼の死後、「ポール・ハリス基金」がわずか一年余の間に100万ドル以上の高額に達し、この基金の一部が国際的な奨学金プログラムに使用され、ロータリー財団発展の基礎となったことは、ポール・ハリスの遺志を最大限に生かす結果となったといって良いでしょう。



米山が翻訳したポールに関する書籍

我が国最初のロータリークラブである東京ロータリークラブの創立者である米山梅吉さんは著書の多い方でしたが、ロータリーに関しては『ロータリーの理想と友愛』『ロータリーの創始者ポール・ハリス』の翻訳をした以外には、著書と呼べるようなものは著していないようです。

米山さんの言行については、佐々木邦の『米山梅吉伝』をはじめいくつかの評伝が書かれており、かなり詳しく知ることが可能です。

そのうち、青少年に関するものとしては、まず緑岡小学校の創立・経営があります。昭和12年米山さんは、私財をなげうって彼の母校である青山学院のために緑岡小学校を創立します。この小学校は後に青山学院初等部となるのですが、米山さんはあろうことか自ら校長兼理事長に就任しました。上掲の佐々木邦は、「教育家の看板を掲げない教育家」と米山さんを評していますが、校長になってしまっては、教育家の看板を掲げたといわれても仕方ありません。米山さんにはすれば、よほどの思い入れがあったのでしょう。

4月1日の入学式で米山さんは、学童に向かって「言語、服装、容儀を正しくすること、人に迷惑をかけないこと、人にされて嬉しいことを人にもすること、誠実を第一として虚偽、偽善を厭うこと」を強調したということです。まるで、ロータリアンに対して説くような話を聞かされて、びっくりしたであろう小学校一年生の顔を想像すると、米山さんの生真面目そのものといった風貌が二重写しになって彷彿します。

また、苦学生に対する学資の援助があります。「米山といふ名は先方に告げて下さるな。ただ、遠くから見守っている者があるから、と激励して渡されたい」と

厳しく匿名をつらぬいたといわれます。それが半端なものでなかったことは、春子夫人をはじめ家族の方さえ「お父様はなぜあんなに他人につとめることができるのでしょうか。」とその真意を忖度し兼ねることもあったということからも推測ができます。

こうしてみると、ロータリーの二人の偉大な先達に共通していることは、次の時代を担う青少年の教育を、国家という垣根を越えて大切に考えていましたということです。



緑岡小学校開校式(昭和12年4月1日)

このような精神は、世代を超えて継承発展させなければなりません。私たちも、青少年に対して良き影響を及ぼすために行動する義務があります。多くのロータリアンが、青少年への奉仕に力を入れていることは、このような意味から極めて有意義なことです。

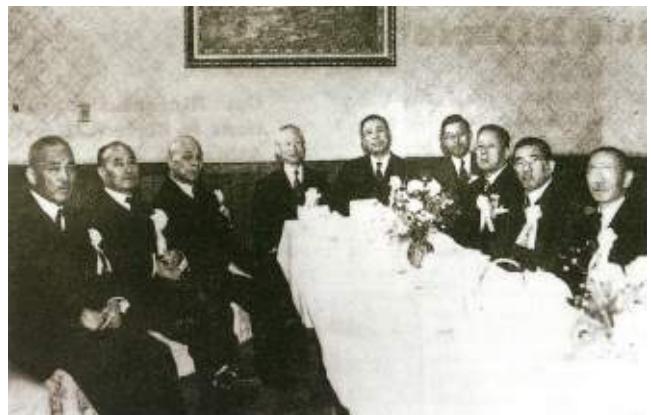
しかし、ロータリークラブが青少年の奉仕に、如何にまた何処までかかわるべきかについては、ロータリークラブが本来如何にあるべきかという問題とのかかわりにおいて、大変困難な問題を提起していることも看過しえないところです。ローターアクトクラブの会員の極端な減少、それどころかクラブの解散までが目だっていることからも、それは先き送りできない課題として私たちの前に突きつけられています。未来に向けて、責任を持って青少年を導いていく作業の一翼を担うことが、ロータリークラブのなすべきことであるのか。ロータリークラブの会員すら減少しつつある現況を見ると、ロータリアンは、ロータリーの衰退という煉獄の苦しみを味わわるために何をなすべきかについて、真剣にしかも具体的に考えなければならないところに来ているのではないでしょうか。

それにしても、余人の及び能わざる奉仕の生涯を貫いた米山さんが、ロータリークラブの解散というこの世の生き地獄の辛酸を嘗め、ついにその復活を見ることなくして世を去られたということは、日本ロータリー史上最も悲壮な出来事であったといえるでしょう。

今を去る84年前、昭和15年9月11日のことありました。米山さんは東京ロータリークラブの演壇に立って創立者として挨拶をしました。「重い足を引きずって私は今ここに立つ。こんなつらい気持ちで皆様に語らねばならぬのは廿年来初めてである。…私はただかかる結末になったことをお詫びしたい。しかし我々としても時の流れに対して徒に手を拱いておったのではない。日満ロータリーの建設の如きもその現れである。然し、時代の流れは余りにも急激であった。進路は三つしかない。一、最後迄ロータリー俱楽部を守り通すか。二、潔く全く解体してしまうか、三、国家単位の新しい会を組織し、ロータリーの精神を継承するか。インターナショナルの精神は新組織に於ても絶対にこれを残すべきであると信ずる。サービスの理想、己の職分を通じての奉仕、世界的和衷誼、これ等を失ふならば新組織の会は存立の意味をなさない。…創立以来廿年を顧る時、誠に感慨無量である。この間、ロータリー俱楽部が如何に国家に貢献して来たか、その歴史は輝いている。私の眼底には絵巻物の如くそれ等が髣髴として来る。私はただ、ただ皆様に御礼を申上げ、自分の不行届の点をお詫びしたい。…」

米山さんは、語り終えると、肩を落として演壇を下りました。そして遂に再びロータリークラブの壇上に立つことはなかったのです。

昭和15年という年は、大日本帝国が皇紀二千六百年として祝った年でした。巷には奉祝歌が華やかさの裏に底知れぬ虚しさを秘めて流れていきました。「どよもす萬歳の奉唱、皇紀二千六百年慶祝の佳き日、一億蒼生の感激はたか鳴る、祝典を通して日本民族の血は清く濃い像を示した。…比類なき寔



日満ロータリー連合会解散の年に開かれたガバナー会
左から二人目米山梅吉

に一大家族的國民一體感の交流、これこそ皇國の彌栄を約束する尊い心理的地盤ではあるまいか。…そのために今こそ如何に臣道を實践すべきかの積極的建設的な政治的指導者が、一億民衆の切実なる待望である。」中央公論にすらこんな文章が載っていたのです。國民は中國大陸での東の間の戦勝の報道に酔っていました。そんないびつな世相の中で、米山さんは、冷静にいつはりと真とさかひなき世の性道ゆく人のおぼつかなしやと和歌を詠んで、日本の将来を危惧していました。

日本のロータリーは、軍閥という巨大な外圧に屈しました。しかし、先輩ロータリアンは、ロータリーの心を失いませんでした。だから戦後華々しく復興を果たすことができました。私たちは今、戦前とは違った形で困難な時機に際会しているのではないでしょうか。「彼らはロータリーの心を失っていた」と後人から指摘される愚だけは避けたいものです。

この文章は、国際ロータリー第2780地区1994-95年度ガバナー月信からの転載です。

石橋湛山 と 米山別邸



米山別邸における米山家の集い 米山は奥の右端

明治26年、大正天皇(当時は皇太子)のご静養のため、静岡県沼津市に御用邸が造営された。御用邸が建てられて以降、温暖な気候で東京からも程よい距離を保ち、千本松原の松林や駿河湾から臨む富士山などの立地から、沼津には大山巖、西郷従道、大木喬任など多くの政財界人が別荘を持った。西園寺公望は、別荘地としてどこが適地かを調べさせた。その結果、箱根山を越えた沼津から静岡までの間が交通の便が良く環境もよい、ということで沼津に別荘を作ろうとしていた。最終的に西園寺は興津に坐魚荘を作ったが、沼津の千本浜公園入口の「沼津公園」の碑は、西園寺の揮毫によるものである。

静岡県沼津市にある沼津俱楽部は、大正2年にミツワ石鹼の創業者・二代目三輪善兵衛が、沼津市から借用した約三千坪の土地に建てた別邸である。江戸幕府小普請方大工棟梁柏木祐三郎が手掛けた邸宅は、茶人であった三輪の意向を反映して、茶室のある大きな数寄屋建築であった。戦時には、将校の休息所として陸軍が接収した。当時沼津には海軍工廠や軍事工場があり、大空襲の標的になった。戦後、沼津俱楽部は三輪氏に返還されず、陸軍省が解散したため、大蔵省のものになった。当時の大蔵大臣石橋湛山は「大蔵省が持っていても仕方ない」と沼津市に譲渡の話を持ち掛けた。当時の沼津市長勝亦干城は、沼津市として入手を考えたが、十分な資金を取りまとめることができなかった。そこで沼津魚市場の創業者でもあった勝亦は自分の仲間に声をかけ、沼津俱楽部を

大蔵省から買い取った。そして「社団法人沼津俱楽部」を設立し、昭和21年に認可された。こうして沼津俱楽部は、昭和20年7月16日の空襲によって焼野原となつた沼津の戦災復興を協議する場となった。

石橋湛山の日記には、たびたびこの沼津俱楽部が登場する。「沼津俱楽部にて第二区有志者の新年会を催す。大いに盛会なり」(昭和27年1月6日)「沼津湛山会に出席の宣伝行きわたることを知り、商工会議所における講演に出席。今夕沼津は暴風雨なり、しかし聴衆は案外多し。沼津クラブに泊」(昭和28年3月1日)「午前中沼津俱楽部にて臥床指圧」(昭和30年5月29日)

石橋は昭和21年3月、衆議院議員選挙に東京第二区から初めて立候補したが落選していた。沼津俱楽部に集まつた人たちの中から、選挙に誰か選出したいという声があがつた。静岡二区選出の佐藤虎次郎は、終戦後初めて行われた昭和21年の総選挙で当選したが公職追放となり、自分の地盤を譲り受けてくれる人を探していた。佐藤追放の後、静岡第二区をどうするか、大蔵大臣官邸では山梨県出身の大物たちが石橋湛山担ぎ出しの相談をしていた。

佐藤は尊敬する石橋湛山を担ぎ出そうと、昭和22年1月沼津市長を務めた名取栄一邸を訪ね、沼津政財界の支援を要請した。名取栄一は、1873(明治6)年山梨県中巨摩郡生まれ。繭仲買の父の招きで14歳の時に御殿場に転住し、その後沼津に移った。名取商会や沼津信用金庫を創設して「駿東に名取あり」と

いわれる人格者であった。昭和21年の選挙で敗北した石橋が、静岡二区から立候補しないか、という申し出を受け入れた理由は二つ考えられる。一つ目は、石橋の父親が沼津の千本松原で転地療養をしていたこと。二つ目は、自分を応援してくれる名取が、同郷山梨の出身であったことである。東京から出馬しての選挙の難しさを身に染みて感じていた石橋は、静岡からの出馬に傾いてきたが、選挙事務長の人選を案じていた。しかし地元で人望の厚い名取が選挙を取り仕切ってくれるならば心強い、と思ったのだろう。名取は「石橋さんを担いで静岡県から首相を出そう」と沼津、御殿場、下田などの政財界を仕切る「名取門下」の幹部を集めめた。石橋は、名取の勧めで名取方の沼津に本籍地を移し沼津市民となって出馬した。こうして昭和22年4月の総選挙に最高点で当選した。生糸の事業で成功していた名取は、物心両面で石橋を支えた。名取栄一翁伝記によれば、名取翁は選挙のたびに次々と土地を売って経済的援助をし、さらに石橋が国政に専念できるように選挙区からの陳情などを自力で処理したという。石橋もこれに応えるように三島大社の豆まきに参加したり、沼津の小学校で講演したり、ワサビ畑の見学に行ったりと伊豆半島の選挙区をまめに歩いている。

石橋は昭和29年6月18日には地元沼津ロータリークラブの例会に出席し、卓話も行っている。「保守党の再編成については起伏があつたが漸くその緒につき吉田首相外遊の希望もありその間に準備完了の計画まで進められていたが不幸にして先般の乱用事件は明かに一つのつまづきとなつた。首相の外遊も今尚内々交渉中の由だが既に夏季に入った為の不都合もある。新党の誕生もおくれる事はやむを得ない。」(沼津RC第115回例会卓話より)

石橋は昭和31年12月、鳩山一郎首相の辞任に伴い行われた自民党総裁選に勝利し、首班指名を受けて内閣総理大臣に任命された。静岡県から輩出された唯一の首相である。しかし、小日本主義を訴え、「日本人は戦争に信仰を有していた。日支事変以来、僕の周囲のインテリ層さえ、ことごとく戦争論者であった。…事実、これに心から反対したものは、石橋湛山、馬場恒吾両君ぐらいのものではなかつたかと思う」(清沢冽著『暗黒日記』より)といわれたように、軍事力での外交

に異を唱え、日中米ソ平和同盟を主張したリベラルな言論人は、病に倒れわずか65日で首相の座を降りた。



沼津駅前での石橋首相歓迎パレード(昭和32年1月)右は名取栄一

石橋の日記に、下土狩にいたという記述がある。「十一時ごろ静浦発。下土狩別荘に赴きて一覧」(昭和31年2月5日)この下土狩別荘というのが、米山梅吉が晩年住んでいた長泉下土狩の別邸である。登記簿によると、この土地は明治42年に米山が取得した。大正6年に建てられた別邸は、木造二階建ての小ぶりな家屋であった。別邸の通用門は、衡衛門こうえいもんと呼ばれた。「誰でもお気軽にお入りください」という意味で、実際多くの友人知人が別邸を訪れた。この門は、現在米山梅吉記念館の裏門として使用されている。



下土狩別邸の通用門 通称衡衛門

米山が亡くなった昭和21年4月28日、家督相続により三男桂三の所有になり、昭和26年に三島工業という不動産業者のものとなった。いつどのような経緯で石橋がこの別荘を手にいたのか、詳しいことはわからない。石橋がこの地に米山梅吉が住んでいたことを知っていたかも不明である。おそらく駿東地区の熱心な支援者の紹介によるものであろう。この別邸の保存運動こそが、米山梅吉記念館設立の発端となっている。

三井信託と 米山さんの遺風

野守 広 (元 三井信託取締役)

私は明治三十八年に東大独法を出て農商務省に入り、大正七年三月役人をやめて、三井合名の理事長團琢磨さんのお勧めにより同社の調査役となりました。三年間内外各地で調査や契約などをし、又蒙古、シベリヤ、欧露などに出掛けて多くの月日を費しました。ところが、三井銀行で池田成彬と並んで常務をして居られた米山さんが、重役を拋つて、信託業法実施以後最初の信託会社設立を思い立ち、主として三井銀行員中から適任者を引抜いて準備に当る補助者とされたのであります。そのとき、私は団さんの推薦によつてそのグループの中に採用されることになりました。

当初、米山さんはグループ外の一員として使用したいとの話してありましたが、お目にかかるたびに、私をその中に加えるから差当り会社の設立関係に努力し、設立後は信託契約者の増加などに尽力して欲しいとの希望がありました。

私は副社長兼信託部長となつて(後に取締役に就任)各種の内部諸規定の制定や信託契約条項の立案、決定等に従事しましたが、会社設立後暫くの間は、研究従事員一同(三渕忠彦君もその一員)は事務終了後、毎晩十二時頃までも会社に居残って仕事をしました。これで一番迷惑したのは小使の諸君でした。社員が十二時に退社では後片付けをすると、自分たちは終電車に間にあわないと申出でたので、十一時前に切り上げることになりました。このように各員が利害関係を離れて努力して業法に基づく信託会社の第一号を仕上げたのは、全く米山さんの統率がよろしきを得た結果であります。

米山さんは、全く大人格の持主であつて事の大小に拘らず、その統制力を發揮されて、三井信託、次にはこれに倣って続出した諸信託会社の発達の種子をまかれたのであります。又米山さんは大局的の観察注意はいうに及ばず、些細なことにも注意を払われて会社の特色を作り上げ、当時一般の会社は勿論、他の三井諸会社にも見られない良習美風を作り、三井信託では爾来今日に至るまで伝統となっています。

米山さんが与えられた細かい注意の例を挙げると、こんなのがあります。

某君は便所から出て来るとき、ズボンのボタンをかけ終らずに、かけながら歩いていた所を米山さんに発見され、このようなしぐさは粗野でいけないから気をつけるようにと注意されたそうです。その人も米山さんの行届いた好意が忘れられないといつていきました。

米山さんが残された良習美風を略言すれば次のように要約されます。

- 一、各社員が礼儀正しくインギンであること
- 一、社員間には家族的の雰囲気を保つようにすること

昭和十一年五月、米山さんは三井信託の会長並に代表取締役を辞任され、私も同年七月取締役を退職しました。

この文章は『米山梅吉伝』からの転載です。



信託を創った 米山梅吉翁の志を受け継ぐ

信託発祥の地から記念館を訪ねて

三井住友信託銀行日本橋営業部 部長 橋本 憲明



三井住友信託銀行日本橋営業部ワーキングチームのメンバー 米山梅吉翁が実際に執務をしていた旧社長室にて

～往訪趣旨～

令和6年1月13日、三井住友信託銀行日本橋営業部のメンバー7名で米山梅吉翁記念館を訪ねました。

個人としてはこれが3回目の訪問ですが、これまでの2回とは趣旨が異なります。初回はロータリークラブに初入会(小田原)する前にロータリークラブの何たるかを学ぶため、2回目はその後の赴任先での藤沢ロータリークラブでの親睦活動で、今回は米山梅吉翁が日本で初めて信託を創業して100年となる節目の年を迎える翁についてメンバーにより理解を深め会社の源流を辿ることが目的でした。社会奉仕に人生を捧げた翁の生き様、信託業を立ち上げた当時の想いを学ぶことができ、今後の100周年活動の原動力にしていきたいと思います。

～信託創業時の想い～

米山梅吉翁が日本でロータリークラブを立ち上げた人であることは有名ですが、日本で初めて信託業を創業した人でもあることは残念ながらあまり知られていません。金融業界においても、そして合併を繰り返してきた弊社の社員の間でも必ずしも認知度が高くないのが実態です。

そこで信託創業当時の経緯を振り返ってみます。翁が三井銀行の役員時代に欧米視察した際、現地の活動に感銘を受け日本でも必要として持ち帰ったのが、ロータリークラブによる社会奉仕活動と財産管理を担う信託業。ロータリークラブを立ち上げたのが1920年、信託会社を設立したのが1924年(その前提となる



ワーキングチーム米山記念館見学の様子

信託法を制定したのが1922年)ですからほぼ同時期といつていいでしょう。

従って両者の間には共通点が多く、それは奉仕の精神という米山梅吉イズムによるものかと思います。翁は、業として社会奉仕できる財産管理の仕組みが、大正デモクラシーの混乱期であった日本にこそ必要と考え、そのためには法整備と信用力のある信託会社の確立が不可欠と政財界の各方面に働きかけ設立したのが三井信託会社です。三井という冠は付いていますが、翁は創業の趣意からして一財閥の会社ではなく日本全体を基盤とする大信託会社の構想だったことは、設立発起人や当初の出資者に他財閥含む当時の各業界の重鎮が名を連ねている点からも窺えます。

翁の「奉仕」の精神は、その後の青山学院初等部創設や三井報恩委員会(初代理事長)においても共通するテーマですが、信託業においてはそこに「創意」や「開拓」の言葉が加わります。そこには、事業というものは時代とともに変化するものであり創意工夫と開拓の精神をもって未来を切り開くよう翁の強いメッセージが込められたものと理解しています。

100年の時を経て国内で唯一の専業信託銀行として翁の想いと今でも色褪せない「奉仕と開拓」の精神(合併後も弊社の行動規範にしっかりと刻まれている)を受け継いでこられたことに、改めて翁の先見性と偉大さ、伝承してくれた先輩達への畏敬の念しかありません。

～次の100年に向け～

我々日本橋営業部は、翁が設立した三井信託の本店がルーツであり、いわば信託発祥の地とも言えます。実際に翁が初代社長として従事した10年間のうち後半の5年間は現在の三井本館の旧社長室(現部長室)で執務をされていました。幸いにも三井本館は当時のまま現存しており、国の重要文化財に指定されていることから今後も残り続けます。翁が執務をしていた旧社長室(現部長室)も当時のまま応接や見学会等で使われています。記念館に展示されている翁の肖像画(原画)と翁が使用していた机と椅子、イニシャル(UY)付きの簡易金庫は元々は当社が寄贈したものですが、肖像画は昨年複製版を旧社長室に設置済、机・椅子・金庫は記念館のご配慮で今年一時的に三井本館に里帰りさせていただく予定です。

創業100年の節目にあたり、我々日本橋営業部は翁の奉仕と開拓の精神が宿ったこの場所で勤務する立場として、今回の記念館の視察訪問を契機に信託創業者としての米山梅吉翁にスポットを当てて活動していきたいと考えています。早速今回参加したワーキングメンバーにて部内全員で学び考えるワークショップ活動を展開してくれています。これをグループ全体で取り組む100周年事業PTとも連携しながら他店やグループ全体にも広げていき、若い世代そして次の100年に繋げていきたいと考えています。



米山記念館にて記念館役員と共に

三井信託 創業100周年

月間日本橋3月号に、米山梅吉記念館の紹介記事が掲載されました。これは、日本初の本格的な信託会社として米山が作った三井信託が、今年創業100周年を迎えるにあたり、三井本館で営業している日本橋営業部と共に創業者米山に光をあてたものです。

昭和4年に竣工された三井本館では、米山もその前で写真に納まっている大金庫(本号表紙参照)や社長室などが現在も現役で使われており、米山の物語と併せて当時の様子を偲ぶことができます。

これを機会に、一般の方にも米山の名前が広く知られていくことを願っています。



ご寄付が新体系に…

皆さまのご寄付が次の2体系に変わります。

- ① 賛助会員 (1) 米山記念館コーポレーター(クラブ単位)
会費一口 10000円/年(20口まで) (2) 米山記念館フェロー(個人単位)
会費一口 3000円/年(10口まで)

- ② 特別寄附 個人、団体、法人、クラブ、地区等の記念事業や周年事業等のご寄付。金額の区切りはありません。

*記念館へのご寄付は税額控除の対象となります。あなたと共に成長していく記念館を目指します。ご協力のほどよろしくお願ひいたします。

訂正

館報42号でご紹介した2022-23年度ご寄付をいただいたクラブの記事で、河内長野東ロータリークラブ様の記載が
もれています。ここにお詫びして訂正いたします。

お知らせ

米山梅吉記念館 春季例祭

講 演

演題

「米国の歴史:米山梅吉とその時代」

講師

多田 幸雄 氏(東京 RC)



懇親会

ロビーにて講師を囲んでの
懇親会。多くの皆様のご参加
をお待ちしております。

米山梅吉記念館のご案内

新幹線三島駅よりタクシー5分
東名沼津ICより15分

[開館時間] 午前10時~午後4時

[休館日] ●月曜日 ●12月28日~1月4日

●整理のための休館日(5月・8月の特定日)

米山梅吉記念館 館報 Vol.43 春号

■発行日／令和6年3月20日 ■発行者／公益財団法人 米山梅吉記念館 理事長 松村 友吉

〒411-0941 静岡県駿東郡長泉町上土狩346-1

TEL(055)986-2946 FAX(055)989-5101 E-mail yumh@ai.tnc.ne.jp

米山梅吉記念館
公式ホームページ
<https://yoneyama-umechichi.jp>

